



国際ロータリー 第2780地区 第9グループ 湯河原ロータリークラブ 週報



イマジン
ロータリー

2022年11月25日(金) 第2898回例会 形式:対面 天候:晴れ
合唱:我等の生業

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

今日は昨日戻った旅の話をして頂きます。

久々に家内と1週間休みをとって旅行へ行行って昨晚戻りました。今回はコロナで会えなかった友人達との久々の再会とグルメが旅のテーマでした。

浜松で餃子、明石でアナゴ、広島で広島焼と牡蠣、高知でカツオ、そして最後は名古屋で味噌カツを満喫しながら、約2000km車で走ってきました。前は山陽道で40kmオーバーで捕まりましたが、今回は無事おまわりさんにお世話になる事はありませんでした。

旅行支援の影響もあり、どこへ行っても渋滞で、特に広島宮島の紅葉の季節とも重なり、ものすごい混みようでした。宮島口の駐車場へ入るのに2時間近く待たされる状況でした。コロナの第8波と騒がれているのでその前に行っちゃおう、とでも言わんばかりです。高知の桂浜から30分くらいのところに、最近TVでもよく取り上げられている「ピラサントリーニ」というギリシャ風のホテルが今回の最大の贅沢でしたが、ここも18室あるうち半分で満館にせざるを得ないとのこと、人手不足は全国共通のようです。

旅行支援割引が適応されたところもありラッキーでした。宿泊料の割引は安くなっていいのですが、クーポンの使い道はまちまちです。有効がその日だけとか、もちろん地域外での使用が出来ないとかでしたが、始めは土産を買ったりしてましたがそれも限界で、最後はコンビニで日用雑貨の購入で換金してゆきました。これはクオカードなんかの購入でもいいのでしょうかね。何泊もする旅行だとなかなかこのクーポンの処理で頭を痛めてしまう旅になってしまいました。

出席報告

会員	23 名	出席率	84.21 %
欠席	7 名	前回の修正出席率	80.00 %
(免除者)	4 名)	前々回の修正出席率	85.71 %
ゲスト	1 名	事前メイクアップ	2 名
ビジター	1 名		

ゲスト 田島夏与様 (ロータリー財団学友・立教大学 経済学部経済政策学科 教授 国際センター長)

ビジター 原田 徹君 (地区平和フェロー・奨学金委員会委員、小田原北ロータリークラブ)

幹事報告

第9グループIM実行委員会より IM合同例会のご案内
日時:令和5年1月25日(水) 14時30分受付

15時00分開会点鐘

17時29分閉会点鐘

17時45分懇親会

19時20分閉会予定

場所:小田原鈴廣「鈴の音ホール」

神静民報社より

年賀広告掲載のお願い 広告料10,000円

湯河原新聞より

年賀広告掲載のお願い 広告料5,000円

連絡事項

1.12月の例会は、2日、9日、16日、23日の通常例会です、30日は規定により休会です。23日の例会時にクリスマスケーキをお配りしますので欠席なさらないようお願いいたします。

スマイル Box

ご夫人誕生日 伊藤伸之君(和子様・11/30)

ポールハリスフェロー・レッドピン1つ 伊藤伸之君

ポールハリスフェロー・ブルーピン2つ 深澤昌光君

第3回米山功労者 石川博君

原田徹君(小田原北ロータリークラブ)

本日は、田島先生の随行で伺いました。平和フェロー・奨学金委員会の原田と申します。どうぞよろしくお願い致します。

青木義美君

7日間、広島・四国無事に2000km走ってきました。今回パトカーに払う分スマイルさせて頂きます。

平間章弘君

本日のお客様、田島教授は家内の同窓の立教大学です。ようこそいらっしゃいました。

櫻井武志君

田島様、原田様、本日は遠路はるばるありがとうございます。宜しく願い致します。

(文・編集:常盤孝司(11月会報担当)/クラブ会報委員会)

『財団奨学生として与えられた機会』

湯河原ロータリークラブの皆様、本日はお招きに預かりありがとうございます。1999-2000 年度国際親善奨学生として、綾瀬ロータリークラブから米国ボストンのタフツ大学大学院に留学させていただいた田島夏与と申します。奨学生に推薦して頂いた当初は、建設省(現・国土交通省)にて都市計画・公園緑地整備の仕事に取り組んでおりました。留学は、都市環境政策の修士課程からスタートしました。その後大学の奨学金を得て博士課程へ進学し、2005年にPh.D.の学位を取得することができました。2006年の4月から立教大学経済学部で専任教員を務めております。専門は都市や環境に関わる経済分析で、例えば公園をつくって環境を改善することによってどれくらいの経済価値が生じるか、というようなことを、周辺不動産の価格や家賃の変化を分析することによって示す、というような研究をしています。立教大学では国際センターという外国の協定校への派遣留学の送り出しや受け入れ、正規留学生への支援などを行う部署の長を務めており、自分自身が留学生であった経験を学生の支援という形で生かす機会を頂いています。

大学の教員が自分の生涯を通じての仕事になりましたが、ロータリーの国際親善奨学生として留学する機会を頂く前には、自分にこのような道が開けるとは全く考えることができませんでした。本日は、財団奨学金制度が他の奨学制度と比べてどのような特色を持っているのか、という点と、この制度によって可能になった留学が私の職業観や人生にどのような機会を与えてくれたのか、という二点を中心にお話しさせていただきますと思います。

財団奨学生として留学することによって、私は大きく分けて二つの機会を与えられたと思っています。第一に、ロータリー奨学生として学問や国際交流活動を行う中で、大学で出会う先生や学生だけでなく、米国の社会でビジネスや社会貢献をされているロータリアンに出会い、自らの生き方についても多様な考え方に触れることができたことです。第二に、日本ではまだ未発達な学問の分野(都市・地域環境についての社会科学的手法で捉え分析する)を学ぶことができ、これを日本に帰ってから活かしたいと考えたことによって新たなキャリアへの第一歩を踏み出すことができたということです。

まず、私が滞在したボストンの都市圏とタフツ大学についてお話しします。ボストンには、約 70 もの大学があり、学生都市として有名です。この地域にはロータリーの二つの地区がありますが、私のホスト地区であった第 7930 地区にはタフツ大学のほかにハーバード大学、マサチューセッツ工科大学という世界中から留学生が集まる名門大学があり、おそらく世界中のロータリーの地区の中でも最も競争倍率が高いところの一つでした。世界中の奨学生がこの地区に留学することを希望するのですが、7930 地区の受入れ態勢にも限界があります。その意味で競争(運による部分が大きいのですが)が大変厳しく、ロータリー財団からこの地区の教育機関を指定していただけたのは大変幸運なことでした。

国際親善奨学生として、ロータリーによる組織的なサポートを受けられたことは、私たちの米国での体験を非常に豊かなものにしてくれました。私の受入れロータリアンは Saugus RC の女性ロータリアンである Doreen DiBari さんで、最初は私の誕生日である 8 月 7 日に初めて夕食に招待していただきました。その後も米国特有の行事である 11 月の感謝祭や 2 月のイースターなど、多くの機会に家庭に招いていただいて、親戚を含む家族全員と親しくさせていただきました。通常の留学生活では、同じような立場の学生、あるいは先生との交流だけに終始しがちです。ロータリーの国際親善奨学生として家族ぐるみのお付き合いをさせていただいたことは、アメリカ社会に対しての理解を深めてくれたと思います。

次に、大学院での研究面についてお話しします。当初は都市計画の実務を中心に勉強し、修士の学位を得て帰ってくるつもりだったのですが、あるテーマに出会ったことでその計画が大きく変わりました。修士論文として取り組んだボストンの都市開発プロジェクトの経済評価です。これは、ボストンの都心部を通過している高架高速道路を地下化し、その跡地に公園を整備するという大業がちょうど 1985 年から 2005 年にかけて進行中だったのですが(例えば東京の日本橋の上に架かっている首都高速道路を撤去して歴史公園を整備することをイメージしていただければよいかと思います)、この事業が周辺地域にもたらす影響について地価の上昇幅を通じて予測するという研究を行いました。この事業については地域の関心も非常に高く、私の研究成果もボストン市の都市計画局などで実際の計画に役立てていただいたり、また地域の大きな新聞に取り上げられたりしました。ロータリー奨学生として、日本についての理解を深めてもらうという使命だけでなく、留学先の地域社会の役に立ちたいと思っていた私にとって、自分の研究を通じて地域社会に貢献することができたという実感は大きな自信になりました。そして、これらの研究を通じて都市計画と経済学の境界領域の研究に大きな魅力を感じるようになりました。留学先で出会った恩師の研究からも大きな影響を受け、博士課程に進学して研究を深めることを決意しました。社会に開かれた米国の学界のあり方も、研究を通じて公共政策の発展に寄与する道に進むという進路の選択に大きく影響を与えました。

博士課程に進学した後は、ティーチング・アシスタントとして修士課程の科目指導のお手伝いをさせて頂く機会も増え、大学や大学院における教育にも関心を持つとともに、教えるという営みそのものが楽しく自分に向いているのではないかと考えるようになりました。恩師からもプロの研究者としての道を考えてみては、と勧めていただき、若者の育成に携わりながら都市政策研究の発展に関わる道を目指したいと考えました。財団奨学生としての期間を終えてから早いもので 20 年以上が経ちますが、おかげさまで、自分の祖国である日本で研究者としてのキャリアを進めることができています。現在は、中国の優秀な大学を卒業した大学院生が私の研究で研究を進めており、若い世代を育てることに情熱を持って取り組んでおります。

これからの学生がまた貴重な経験を積むことができますよう、引き続きの皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。